

ACTが新たに設定したSTEM分野大学進学準備度ベンチマークに到達した  
STEM専攻希望の2015年高校卒業者の割合は26%のみ (11月11日)

大学進学準備度評価試験を提供する ACT は 11 月 11 日、STEM 分野の専攻を希望する生徒の大学における STEM 分野の授業への準備度を検証した報告書「2015 年 STEM の現状 (The Condition of STEM 2015)」を発表した。これによると、ACT 試験を受験した STEM 分野の専攻を希望する 2015 年の高校卒業生で、STEM 分野の試験結果が ACT が新たに設定した「ACT STEM 分野大学進学準備度ベンチマーク (ACT STEM College Readiness Benchmark)」に到達したのは 26%に過ぎないことが明らかにされた。ACT の CEO であるマーテン・ローダ氏 (Marten Roorda) は、本報告書の結果は、ACT が別の報告書「2015 年大学進学・就職準備度の現状 (Condition of College & Career Readiness 2015)」において結論付けられた、大学進学・就職準備度危機を回避するための強力な対策を早急にとる必要性を確認するものとなった。また、同報告書は、ACT 試験を受験した 2015 年高校卒業生 190 万人のうち、前年同様に 49%が STEM 分野を専攻する意思もしくは同分野への興味を表明している一方で、数学または科学の教員となることに興味を持つ生徒の割合は 1%未満で、前年よりも減少したことを明らかにした。

なお、本報告書は、

<<http://www.act.org/stemcondition/15/pdf/National-STEM-Report-2015.pdf>>  
からダウンロード可能。

University Business, ACT introduces new STEM college readiness benchmark  
<http://www.universitybusiness.com/news/act-introduces-new-stem-college-readiness-benchmark>